

花火〇×クイズ

1	花火の発明の地は「中国」だった。〇か×か。	
2	花火大会で行う打ち上げ花火。花火の打ち上げはそれぞれの「町内の役員」が行っている。〇か×か。	
3	菊のように球形に開く打上げ花火を総称して「玉物」という。〇か×か。	
4	検査に合格したおもちゃ花火には安全を証明する為つけられるマークは「JIS」マークである。〇か×か。	
5	おもちゃ花火の消費期限は「3ヶ月」である。〇か×か。	
6	花火を携行して交通機関を利用する場合、持ち込みに禁止や制限があり、注意が必要だが、「宅配便での発送には制限がない」。	
7	線香花火の“咲き方”は4種類の植物(散り菊、牡丹、松葉、柳)にたとえられますが、「火をつけた直後は牡丹」とたとえられる。〇か×か。	
8	花火をこよなく愛し、「今年の花火見物はどこへ行こうかな」という言葉を残して亡くなった画家は「山下清」である。〇か×か。	
9	昼花火の一種の上空で破裂した玉の中に袋が入っており、万国旗やパラシュートが降りてくる仕組みの花火を「ロケット花火」という。〇か×か。	
10	花火大会のクライマックスによく使われる滝のように流れるように見える巨大な仕掛け花火の名前を「ナイアガラ」という。〇か×か。	

11	花火の赤い色を出すために使われる物質は「炭酸ストロンチウム」黄色は「シュウ酸ナトリウム」、では、「硝酸バリウム」は「緑色」が出る。○か×か。	
12	1967年に 花火の日が8月1日に制定されたのは、「花火事故がもと」となっている。○か×か。	
13	1950年代から1960年代にかけては花火工場の爆発事故が多く、「毎年10人以上の死者が出ていた」時代もあった。○か×か。	
14	打ち上げ花火の「たーまーやー」「かーぎーやー」というかけ声は「花火の種類的事」を言っている。○か×か。	
15	日本で最も古い花火業者は、東京(当時の江戸)の宗家花火「玉屋」である。○か×か。	
16	「鍵屋」「玉屋」とは、それぞれの「職人の前職」から名前を取って名付けられている。○か×か。	
17	現在でも鍵屋では、花火の打ち上げを昔ながらに「手打ち(人の手で打ち揚げる手法)」で行っている。○か×か。	
18	江戸時代にライバルだった花火屋「玉屋」と「鍵屋」の現在は残念ながら「両家とももうない」 ○か×か。	
19	町内の花火大会でもお金さえ出せば「どこの町内でも」大玉の花火を打ち上げることができる。○か×か。	
20	花火の種類、複雑さ、花火師により価格が大きく異なるが、一般的な打ち上げ花火の一発あたりの相場は、三尺玉(打ち上げ高さが600m、玉の開きが550m程のもの)で、「1発約150万円」である。○か×か。	